

外国人に服薬指導するためのアプリや電話通訳システムなどの利用法の実際

講座情報

グローバル化時代を迎えた今、訪日外国人の増加に伴い各医療機関では外国人患者への多言語対応が急務となっている。應義塾大学病院薬剤部の国際化対応チームは「夜勤一人体制の場合でも外国人患者への対応に困ることがないような環境整備」を目指し、次の4点を重点的に取り組んできた。1)外国人患者対応マニュアルの作成、2)多言語対応資料の整備、3)定期的なロールプレイ研修、4)院内掲示物の整備の4点である。今回の研修会では、私たちの活動を紹介しつつ、実際に参加者の皆さまに翻訳アプリを利用しながらロールプレイを体験していただく計画である。この研修会をきっかけに各施設で多言語対応に気軽に取り組んでいただけることを期待している。

※お持ちのデバイス(スマホ、iPad等)に多言語音声翻訳アプリ「VoiceTra」<http://voicetra.nict.go.jp/>を事前にインストールし、ご準備下さいますようお願いいたします。(デバイスをお持ちでなくてもご参加いただけますが、持参されることを推奨します。)

〈学習到達目標〉

- 1 時間目:各医療機関での現状に即した国際化対応の立案ができる。
- 2 時間目:英語以外の言語を話す外国人患者への対応が実践できるとともに、同僚への適切な助言ができる。

講演者情報

山吉康子(慶應義塾大学病院薬剤部 1998 年入職、院内国際化対応チームにて活動)

川島沙織(慶應義塾大学病院薬剤部 2009 年入職、スキルアップのため外国人講師によるプライベートレッスンを受講中。薬剤部国際化チームメンバーのチームリーダーを担当)

笠井雄佑(慶應義塾大学病院薬剤部 2012 年入職、薬学部在学中の 2011 年に海外アドバンス実習生としてコンケン大学にて研修、薬剤部国際化チームのサブリーダーを担当)

吉田加奈(慶應義塾大学薬剤部 2016 年入職、慶應義塾大学薬学部在学中の 2015 年に海外アドバンス実習生としてワシントン州立大学病院で実習、現在は海外アドバンス実習および海外医療従事者による見学時の英語対応、薬剤部内における海外からの患者に対するロールプレイ研修を担当)

神成はるか(慶應義塾大学病院薬剤部 2018 年入職、海外アドバンス実習および海外医療従事者による見学時の英語対応・外国人患者対応マニュアル作成・薬剤部における外国語対応に関する意識調査を担当)

傳田容子(慶應義塾大学病院薬剤部 2019 年入職、インタースクール中国語医療通訳コース修了、薬剤部国際化チームメンバーとして活動。)

参考サイト

多言語音声翻訳アプリ「VoiceTra」 <http://voicetra.nict.go.jp/>

機関向けコミュニケーション支援サービス MELON <https://www.konicaminolta.jp/melon/>